



# 大きな意味をもつ小さな変化

校長



長雨にうんざりと思ったら、今度は焼け付くような日差しにため息をついている今日この頃です。梅雨や夏は毎年必ずやってきますが、「空梅雨」や「冷夏」という言葉があるように、毎年同じわけではありません。だからこそ、人間は自然に畏敬の念をもつのではないのでしょうか。

学校も毎年同じでは面白くありません。学校を取り巻く周りの状況が違いますし、活躍する生徒も違います。毎年毎年同じことを繰り返しているように見えても、そこには必ず「今年度ならではの」部分があるはずです。

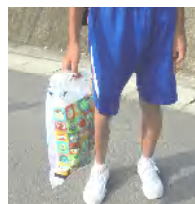
左は、2学期早々発行された生徒会新聞です。これを見た私は大きな感動を覚えました。今年度前期の生徒会執行部が、昨年度の「アルミ缶回収」をそのまま受け継ぐのではなく、自分たちなりの工夫や配慮を取り入れて、令和2年度版の新「アルミ缶回収」を創り上げようとしているからです。

世間では、スーパーやコンビニのレジ袋が有料化になりました。それを受けて執行部は、空き缶を運ぶ袋を再利用できる紙袋やエコバックにしようと呼びかけています。アルミ缶回収そのものが環境問題につながるものだけに、そこからさらにステップアップした活動になったと言

えるのではないのでしょうか。

アルミ缶が家にない生徒、缶を家に忘れてきてしまった生徒など、協力したくてもできない生徒のために、集まったアルミ缶の片づけ作業を一緒にやろうと呼びかけました。これは違う形での協力となり、「したくてもできないのが残念」という思いをもった生徒に対する、生徒会執行部の配慮です。これが「缶はもってこられなかったけれど、私も参加できた!」という喜びや連帯感につながると私は思います。「一人一人の意見を大切にする」というⅢ期の目指すものの一つの形を、生徒会執行部は示したのです。

アルミ缶回収当日、レジ袋でもってくる生徒はゼロではありませんでしたが、紙袋やエコバックなどで運ぶ生徒も確実にいました。環境に優しい執行部の提案は、今後も確実に生徒たちに浸透していくことでしょう。



カバンを背負ったまま、片付けでもアルミ缶回収に参加した2AのY・Y君

片付けに参加した生徒もいました。その中の一人、2年A組のY・Y君は、カバンを背負ったまま空き缶回収かごを積極的に運びました。家にある缶をもって来た上に、進んで手伝いにも協力したY君。汗だくで教室に入り、「手伝ってきました！」と報告してくれたと担任のYがうれしそうに話してくれました。ここにも生徒会執行部の提案に協力する姿が見られ、アルミ缶回収が昨年度とはひと味違う温かな連帯感が漂う取り組みとなっていました。

昨年度の実績をそのまま引き継いでも、それは単なる繰り返しのしか過ぎません。活動のエッセンスは引き継いでも、周りの状況や自分たちなりの工夫を加え、よりよい活動を創り上げることが本来の生徒会活動です。そして、それが今年度の生徒たちの功績や実績となるのです。今回の変化は小さいものかもしれませんが、大きな意味をもつ生徒たちの成長です。

これも、北中が大切にしている主体性だということに間違いありません。今までのものをベストとするのではなく、ベストは自分たちが創り上げたものであるという意識で臨んでほしいと思います。アルミ缶回収という定番の取り組みと思えることでも、工夫次第でさらに活発に、さらに魅力的に、そして、さらに有意義になるはず。生徒たちには、ぜひ「自分たちの～を創るんだ」という気概を持って取り組んでほしいと願っています。

コロナ禍の下でも生徒たちはがんばっています。行事の中止や変更、生活上の制約があっても、彼らは決して悲観することなく、毎日の生活を充実させています。保護者の皆様にも地域の皆様にも、その姿をお見せすることが今年度はできませんが、これからも北中生の活躍や成長にどうぞご期待ください。

## コロナ感染予防と熱中症予防の両立のために

先日、本校のK主幹教諭が、全校放送でこんな呼びかけをしました。

暦の上ではすでに秋を迎えていますが、まだまだ厳しい残暑が続いています。連日35度を超える猛暑日となり、登下校するだけでも多くの汗が出るほどです。週末の雨を境に、来週は少し暑さも和らぐようですが、まだまだ熱中症予防とコロナ対策の両立を図っていかなければなりません。

そんな中、地域の方から北中生の健康を心配するいくつかの声が届きました。

ひとつは、徒歩や自転車で通学する様子です。マスクをしないまま、複数の生徒が楽しそうに話しながら登下校の様子がみられるが、大丈夫だろうか、と心配される方が複数いらっしゃいました。

もうひとつは、バス通学での様子です。バスの中でぎやかに会話している生徒が多くいるが、密な状態で万が一のことを考えると心配だ、というお話をいただきました。

どちらも万が一のことを心配されてのことです。全国的にコロナに感染する人が増え、それに伴って感染予防に対する意識がどんどん薄れてきていることを感じます。あなたはどうか。……(後略)

登下校時、近くに仲間がいる場合は、万が一のコロナ感染を予防するためにマスクをすべきです。でも、生徒たちは、併せて熱中症の予防を自分自身でしなければなりません。コロナ感染予防と熱中症予防を両立させるために必要なもの、それは、生徒たちの「主体的な判断」でしょう。「暑くなってきたからマスクを外したい。だから仲間と離れて歩こう。」「仲間と話しながら歩きたい。だからマスクをしよう。そして、仲間にもマスクの着用を働きかけてみよう。」「熱中症を予防し、仲間とのソーシャルディスタンスを保つためには日傘が有効だ。明日から日傘を差して登下校しよう。」そんな判断が、どれだけ主体的にできるかが問われている気がします。

K主幹教諭の呼びかけを受け、コロナ感染予防と熱中症予防の両立を果そうとする生徒は確実に増えています。自分たちの健康と安全を守ろうという意識の下で、生徒たちは主体性や判断力も育てています。

ご家庭におかれましても、生徒たちの健康と安全を守り、その主体性や判断力を育むためのご支援や声かけをよろしくお願いいたします。

